

「海ゆかば」と「軍艦」

高田 友

「海ゆかば」にバージョン二本あるを存じ給ふや。

ひとつは明治十二年（一八七九）版、今一つは昭和十二年（一九三七）版。

昭和版は皆々様御周知の戦時に頻しきりに流れたるバージョンなり。大本營海軍部發表にて、戦果大なりし時は「行進曲 軍艦」、戦死者多かりし砌みぎりは「海ゆかば」をBGMに用ゐたりとぞ。因みに、大本營陸軍部にても、海軍部の承諾を得て、「軍艦マーチ」を流したりとぞ傳へらるる。

明治版は雅樂なり。インタネットに「海ゆかば 雅樂」と打ち込めば演奏を聴くを得。昔ながらの伶人、古式に則りたる衣裝にて演奏す。抑々昭和版とは音階かじもくを皆目異にす。

この雅樂を聞くに、何とならむ耳慣れたる樂の音ならずやと思はるるあり。明治版「海ゆかば」と言へば存在だに知らざりしに、何條耳慣れたる儀のあるべき。

さは、これが雅樂の「海ゆかば」すなはち「軍艦マーチ」の間奏曲に異ならざればなり。繁華街を歩けば巴珍ばちんこ狐屋よりこの曲流れ來たるによりて、耳に胼胝へんぢの生ずるほどに國民悉皆雅樂「海ゆかば」を聞きたる記憶あらずんばあらざるなり。なんと戦前の人に比して平成令和人の方かたなほ「軍艦マーチ」および雅樂「海ゆかば」に親しむありと言ひて過言ならずといふを得べし。

終戦後、皇朝を侵し來たる米國進駐軍の軍人どもの間にて持てはやされたる我が邦の音樂は、一に「軍艦マーチ」、二に「支那の夜」なりしと言ふ。終戦直後、GHQは軍國主義的と判じたる音樂、繪畫、文學みん杯たいに彈壓を加へたれど、「軍艦マーチ」は曲のみにて歌詞を附せざれば、音樂に罪なしとの理にて認めらるるに至りしとの由。巴珍狐屋の音樂と化したるも既に終戦直後に始まりとは聞く。

知る人ぞ知る、この行進曲の本來の名は「軍艦」なりき。戦前より「行進曲軍艦」または「軍艦行進曲」と呼ぶの儀もなかりしにはあらねど、ただ「軍艦」とするが常なりきといふ。然るに、進駐軍營舎に膾炙したるによりて「軍艦マーチ(Warship March)」の名普及し、爲に邦語にて呼ばむにも、「軍艦」ならで「軍艦行進曲」と言ふが常態にこそはなりにけれ。

さて、知己に「軍艦マーチの歌ひ出しの歌詞はなんぞや」と問へば、大方は「守るも攻めるも」と答ふ。さにあらず。文語なれば「守るも攻むるも」に外ならず。

「守るも攻むるも」にて始まるが一番。「石炭の煙は」にて始まるが二番。この一番二番の歌詞に該当する部分の音楽を「主旋律」と言ふ。通常歌はるはまづ前奏曲（ジャンジャンじゃじゃ馬あばれ馬）、その後主旋律を二回。歌詞附したるはこの主旋律に合はせて一番二番を歌ふ。その後之間奏曲あり、間奏曲終れば主旋律を今一度。歌詞は二番にて終るに由りて、インターネットの歌詞附きの「軍艦」にても、最後の主旋律は空桶からをけにて歌詞は歌はず。

正しき歌詞を聞かむと欲する諸氏は「行進曲 軍艦(March warship) 海ゆかば 歌詞付」てふサイトを引きたまへ。下線部をそのままに打ち込めば、歌詞を聞き、字幕を讀むも可なり。

さて、二番と三番の間なる間奏曲こそ雅樂の「海ゆかば」なれ。雅樂そのものにてはあらで捻りてはあれど、凝じつと聞けば雅樂を聞き取るを得。然しからばすなはち則行進曲「軍艦」を聞き慣るるほどに、自づから雅樂の「海ゆかば」を人みな記憶するに至れりとの理になむありける。

昭和版の「海ゆかば」の歌詞は左の如し。

海ゆかば水漬みづく屍 山ゆかば草産むす屍

大君の 邊へにこそ死なめ 顧みはせじ

一方、明治版は最後の七文字を異にす。

海ゆかば水漬く屍 山ゆかば草産す屍

大君の 邊のどにこそ死なめ 長閑には死なじ

「海ゆかば」は萬葉集に載れる大伴家持の歌なれど、その砌より、「顧みはせじ」と「閑には死なじ」を交互に歌ひたるとの儀。「顧みはせじ 長閑には死なじ」と續けたりき。

「長閑には死なじ」は現代語の「のどかには死なないぞ」に異ならずと雖も、この歌にては、「畳の上でのんびりとは死なないぞ、戦場で死んでやるぞ」との意の籠められたるに相違なし。

なほ、「おほきみ」を「おほぎみ」とな訓よみたまひそ。

閑話休題、それはさておき「邊にこそ死なめ」は「め」にて終はれるが命令形の如くに聞ゆるによりて、「主上の足元にて死ね」との義ならむと思ふ人多かれど、さは速断そしの誇りを免れず。

眞は「邊に死なむ」に係助詞「こそ」の入りたるがゆゑに、係り結び生じて、「む」の已然形「め」に變じたるなり。

「む」は《意志・推量の助動詞》にて、英語の *may* に装ふを得べし。さすれば、「邊に死なむ」は「大君の足元で死んで行くぞ」なる我が決意を示したるのみにて、命令の意は含まれず。

「邊にこそ死なめ」もそれが意の係り結びによつて強調せられたるのみにして、なほ己が意志を表すに外ならず。命令にはあらざるなり。

しからば、この「む」を命令にせむと欲するには如何にすべしや。つらつら考ふるに、意志・推量を命令にするを得や否や、洵に不可解にあらずや。意志・推量の命令形などあるべしや。ここにて、《助動詞活用表》をけみ検するに、果然「む」には命令形のか闕けてありとなむ。

偕さて、「顧みはせじ」の「じ」は何ぞや。《助動詞活用表》をひ索くに、ただ《否定》とありて、「ず」と並べて配置せり。

然れども、暫し黙考して愚見を述べれば、「じ」は「ず」に意志・推量の加はりたるにあらずや。畢竟《否定》の《意志・推量》ならむとは思はるる。

《助動詞なし》を「ム」にて表せば、「ム：むⅡず…じ」になるらむ。(有效なる遺伝形質を持たざるY染色体になぞらへたり) 「食ふ」の意志・推量は「食はむ」なれど、「食はず」の意志・推量は「食はじ」になるといふ次第なり。さらに、「む」と同じく「じ」も命令形をか闕く。

かやうに緻密に歌の意を解したる上にて、「死なめ」「顧みはせじ」「閑には死なじ」に耳を傾くれば、萬葉大伴家持の至誠、あるいは沖繩に散りてし特攻隊員の忠烈に思ひを致すを容易ならしむべし。

(令和六年九月二十日受附)